

泉南市では、小学校2年生から中学校2年生までのすべての児童生徒を対象に、認知能力テスト「NINO」と標準学力テスト「NRT」を実施しています。すでに結果は学校を通じて返却され、ご覧になった方も多いと思います。ある学校では、懇談の際に担任の先生から「この力が伸びていて、こちらは少し苦手ですね」といった説明があるなど、お子様の得意・不得意や、力の伸ばし方について考えるきっかけになった方もおられるのではないのでしょうか。

今回は、NINO と NRT の結果を活用した取り組みを進めている信達中学校の実践を紹介しします。信達中学校では、生徒がデータをもとに先生と授業について話し合ったり、結果が返ってくる前に自分の結果を予想したりと、主体的に学ぶ工夫が進められています。

生徒と先生と一緒に授業を考えています

先生が授業のことを考え、生徒は授業を受ける。それが普通といえば普通かもしれません。しかし、信達中学校は少し違います。

生徒会役員の生徒たちが、NINO と NRT の結果等をもとに、自分たちの学習スタイルに合わせた改善案を提案し、先生と一緒に「よりよい授業づくり」について意見を出し合う取組を進めています。

生徒からは、(クラスや学年の得手・不得手を知って)「プリントに書き込むだけやと覚えられへんから、もっとロールプレイとかを入れて現実に近い形でやればいい授業になるよね。」
 「単元小テストをやってくれるのは、ほんまに感謝。忘れてしまうのを意識できる。」という声や、(下学年の内容でのつまづきを知って)「AI ドリル (navima) をもっとうまく使うにはどうしたらいいのかな。小5の算数でひっかかってるんやったら、苦手な子はまずそれ(navima)からやったらいいんちゃう。」などといった意見が出たりしました。

みんなが頑張れる授業とはどんなものか、どうすれば効率よく学べるかなど、生徒と先生と一緒に考えています。生徒と先生が共に授業を作り上げていることで、生徒たちの授業のやる気は必然的に上がっていきます。



自分の力をメタ認知する取り組み

最近、「メタ認知」という言葉をよく聞きますか? 「メタ認知」とは、「認知の認知」と言われるもので、自分の考え方や行動を、もう一人の自分が少し離れたところから見ているようなイメージです。例えば、「今、自分はちゃんと理解できているかな?」「このやり方でうまくいくかな?」と、自分の学び方や考えをふり返って確認する。これがメタ認知です。信達中学校では、このメタ認知の力を育てることも大切にしています。下の写真は、オリジナルのシートを使って、自分の認知能力を予想している様子です。

「暗記は得意だから記憶力は5」「計算は少し苦手だから数的能力は2」「早く書くのは得意だから処理速度は4」「私はじっくり考えるタイプ」「明日からは、メモを取るようにしよう」など、友達と話し合いながら、自分の得意・不得意や勉強との向き合い方を振り返る様子が見られています。



自分の力を「メタ認知」(自己分析)してみよう!

年 級 番 名前 ()

★NINOスタイルで「メタ認知」★

1. 5つの力を「1〜5」で自分で評価してみよう!
 (5 最高! 4 まあできるよね 3 ぼちぼち 2 ちょい苦手かも 1 しんどい!)

①記憶力・・・()
 ②言語能力・・・()
 ③数的能力・・・()
 ④処理速度・・・()
 ⑤思考力・・・()

2. あなたはどっちのタイプ?

3. 問題をとくときは・・・

4. 問題をとくときは・・・

5. ずばり! 勉強に前向きに取り組んでいるかな? (○をつけよう)
 【5 ばっちり! 4 まあ、そうね 3 ぼちぼち 2 しんどいかも 1 後ろ向きです】

★NRTスタイルで「メタ認知」★

(5 めちゃできる! 4 まあ、できる 3 ぼちぼち 2 やや苦手かも 1 助けて...)

【国語】
 ①話す・聞く・・・()
 ②書く・・・()
 ③読む・・・()

【数学】
 ①数と式・・・()
 ②図形・・・()
 ③関数・・・()
 ④データ系・・・()

【英語】
 ①聞く・・・()
 ②話す・・・()
 ③読む・・・()
 ④書く・・・()

★明日からがんばることは?★(具体的に、まずはできること)

★この時間の振り返り★(これもメタ認知!)

泉南市では、今回紹介した信達中学校の他にも NINO、NRT の結果等を活用し、様々な取り組みを行っている学校があります。

ご家庭でも返却された結果をもとに、お子様の「メタ認知」を親子で話してみてもいいのではないでしょうか。

